



感染症に気をつけよう



1. 全数報告感染症(感染症法1～5類感染症):7月の報告

腸管出血性大腸菌感染症の報告が6件ありました。うち3件は

家族内感染と考えられています。食中毒に関連した報告はありませんでしたが、夏は特に食中毒のリスクが高まるため注意が必要です。

アメーバ赤痢の報告が7件ありました。このうち2件は性的接触が原因と考えられています。この他、性的接触が原因の感染症として、後天性免疫不全症候群(無症状のHIV感染症を含む)の報告が3件ありました。

定点報告感染症(感染症法における5類感染症)

平成 23 年 6 月 27 日～平成 23 年 7 月 24 日

疾患名	市内流行状況	コメント
<u>咽頭結膜熱</u>	→	市内での定点あたり患者数は7月に入ってさらに増加しましたが、増加の勢いは鈍ってきています。
<u>手足口病</u>	↗	今年は全国的に大流行しています。市内でも16年ぶりの大流行となっていて、今後さらに患者数が増える可能性があります。
<u>伝染性紅斑</u>	↘	7月の患者数はほぼ平年並みでした。流行のピークは過ぎたと思われます。
<u>ヘルパンギーナ</u>	↗	夏場に流行する感染症のひとつです。市内では6月下旬から定点あたり患者数が増え始めています。今後の動きに注意が必要です。

大流行 流行 やや流行 散発 ×市内発生なし
 ↗ 増加傾向 → 横ばい ↘ 減少傾向

2. 今気をつけたい感染症

手足口病:夏場に多い、主に乳幼児の病気ですが、大人がかかることもあります。3～5日の潜伏期間の後、軽い発熱や、手のひら・足の裏・口の粘膜に発疹が出るのが特徴ですが、今年は、熱が高い・発疹の範囲が広いなど、通常と症状が異なるタイプが見られています。多くは1週間程度で治りますが、ごくまれに髄膜炎や脳炎になるケースもありますので、吐く、高熱が出る、または熱が続くときには早めに医療機関を受診してください。この病気を防ぐためには手洗いが重要です。特に小さいお子様がこの病気になったときは、おしめを交換した後の手洗いをしっかりとすることが感染予防につながります。

・横浜市衛生研究所パンフレット [今年は手足口病が流行しています!](#)

「感染症に気をつけよう8月号」は、7月28日の横浜市感染症発生動向調査委員会の内容を市民向けに加工したものです。詳しくは、[委員会報告](#)をご覧ください。

市内感染症に関する詳しい情報は、[感染症発生状況](#)をご参照ください。

また、衛生研究所では、一般の方用の[パンフレット](#)の作成もしていますので、併せてご利用ください。

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課(感染症情報センター)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

